

今週（10月17日から10月21日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は日銀当座預金残高が315兆円前後と引き続き高水準での推移となった。無担保コールO/N物は、新しい積み期間の初日にあたる17日は、都銀・信託・地銀・証券の調達を中心に▲0.06～▲0.03%の出合い。全般的に慎重な動きから先週末より大幅に低下し、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.048%となった。しかし、18日以降は方向感が定まったからか、参加者は限定的ながらも週を通して上昇基調で推移となった。週後半にかけては▲0.03%台へと上昇し、▲0.04～▲0.03%のレンジの取引となった。ターム物は幅広い期間で▲0.035～▲0.025%の出合いが散見された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、10/20に2W・8,000億円がオファーされた。結果としては、応札額1,800億円(期落ち額2,010億円)と札割れとなった。また、同日にBCP訓練の本店方式による即日オペも1,000億円でオファーされ、落札は22億円であった。

●レボ市場

今週のGC O/N物は▲0.09～▲0.08%程度の水準で推移した。17日のS/Nは▲0.09～▲0.085%の出合い。18日のS/Nは短国1年物の発行要因等から若干レートを上げて▲0.08%での出合い。19日のS/Nは▲0.085%の出合い。20日のS/Nは短国3ヶ月物の発行要因等から再びレートを上げて▲0.080%での出合い。21日のS/Nでは短国買入オペ等の要因で▲0.09%近辺までレートを切り下げた出合いとなった。

個別のSC銘柄では5Y124～128、10Y336～343、20Y152～157、30Y49～51、40Y9などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られている。

●短国市場

今週の短国市場は、海外勢の購入需要が減退していることから需給が軟化し、全体的にレートが上昇する展開となった。

新発の入札は、18日に1Y物、20日に3M物の入札が実施された。1Y物の入札結果は、平均落札利回▲0.3219%、按分落札利回▲0.3080%となった。オペ見合いの札が入ったものの、全般的な需給の悪さからか、過熱感も無く、比較的落ちついた結果となった。セカンダリーでは、▲0.34%で少額の出合いが見られた。3M物は、WI取引において▲0.25%でまとまった出合いが見られる中、更なるレート上昇も予想されたものの、平均落札利回▲0.2545%、按分落札利回▲0.2493%とほぼ同水準の結果となった。セカンダリーでは、ショートカバーからか、一時▲0.32%まで買い進まれる展開となった。

21日には、短国買入オペが事前に予想されていた下限である2兆5,000億円でオファーされた。甘くなるとの見方もあったが、結果は平均利回較差+0.021% 按分利回較差+0.012%と、予想より落ち着いた結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、償還総額3,300億円程度に対して、発行総額8,300億円程と、発行超のマーケットとなった。五・十日における発行がやや膨らんだことや、鉄鋼、機械、建設、鉱業等複数業態で、まとまったロットでの発行が見られたこと等が寄与した。発行レートに関しては、大口ロットの発行においても、上昇圧力は生じておらず、大部分が0%近辺で推移する展開に変化は見られなかった。改めて、0%以上での投資家の運用ニーズの強さが確認された形となった。

19日には、CP等買入オペがオファー額3,500億円で実施された。リース銘柄が多く対象になったことから、平均落札利回は0%、按分落札利回は▲0.001%と、平均落札利回が若干上昇した程度で、前回からほぼ変わらずの結果となった。応札額も7,215億円と低水準にとどまっており、淡々と玉の入替を行う姿勢がうかがわれた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/17 (月)	16,900.12	△ 0.060	104.20	△ 0.048	△ 0.085	3,147,500
10/18 (火)	16,963.61	△ 0.055	103.82	△ 0.045	△ 0.087	3,141,100
10/19 (水)	16,998.91	△ 0.060	103.80	△ 0.041	△ 0.088	3,154,800
10/20 (木)	17,235.50	△ 0.069	103.63	△ 0.035	△ 0.086	3,129,400
10/21 (金)	17,184.59	△ 0.060	104.12	△ 0.035	△ 0.085	3,141,200

来週（10月24日から10月28日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/24 (月)	9月の貿易統計(財務省 8:50) 8月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				
10/25 (火)	月例経済報告 (内閣府)	20Y 11,000億円 10/27発行	交付税借入 10,500億円 11/2借入		8月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 10月の米CB消費者信頼感指数
10/26 (水)	9月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)				9月の米新築一戸建て販売件数
10/27 (木)		TB3M 44,000億円 10/31発行	2Y 23,000億円 11/15発行		9月の米耐久財新規受注 7-9月期の英GDP速報値
10/28 (金)	9月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 9月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10月都区部・9月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 9月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)				7-9月期の米GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
10/24 (月)	▲ 300	▲ 9,000	▲ 9,300	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,000 ▲ 600 300	1,800 3,500	3,000	▲ 6,300	TB3M発行▲44000償還36900 流動性供給▲5000
10/25 (火)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000	国債買入 短国買入		5,100 25,000	30,100	26,100	
10/26 (水)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	
10/27 (木)	▲ 2,000	▲ 12,000	▲ 14,000				0	▲ 14,000	20Y発行▲11000
10/28 (金)	▲ 2,000	0	▲ 2,000				0	▲ 2,000	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 6,300	▲ 23,000	▲ 29,300	—	▲ 2,300	35,400	33,100	3,800	

10/24は日銀予想、10/25以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き調達意欲の強い展開が見込まれるものの、月末の金融政策決定会合を意識し、慎重な展開も予想される。

短国市場は、27日に3M物の入札が実施予定となっている。

CP市場は、26日にCP等買入オペの実施が予定されており、結果が注目される。市場残高は企業の冬の賞与需要等で増加することが期待されるが、投資家の買いニーズは根強く、発行レートは引続き0%付近の狭いレンジで推移することが予想される。

主要なイベントとしては27日の7-9月期の英GDP速報値、28日の9月の全国CPI、7-9月の米GDP速報値などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入